下関市菊川町における「道の駅」等に関する分析

水谷利亮
吉弘憲介*

目　次

はじめに

１.「道の駅きくがわ」及び「小日本ふるさと市」の利用者アンケート調査結果の概要分析
（１）年齢構成
（２）利用頻度
（３）利用者の住所・発地区分
（４）道の駅きくがわの満足度
（５）小日本ふるさと市の満足度
（６）道の駅きくがわで拡充すべき要素
（７）小日本ふるさと市で今後の拡充商品
（８）道の駅きくがわ以外に利用する道の駅
（９）道の駅きくがわと小日本ふるさと市の相互の行き来について

２．利用者アンケート調査結果の考察

３．県外の道の駅の取り組み事例
（１）道の駅許田やんばる物産センター（沖縄県名護市）
（２）道の駅「花の駅・千曲川」（長野県飯山市）

おわりに

［資料①］アンケート調査用紙：道の駅きくがわ
［資料②］アンケート調査用紙：小日本ふるさと市

＊桃山学院大学経済学部・准教授

はじめに

下関市内には、３つの「道の駅」がある。旧菊川町地域にある「道の駅きくがわ」と、旧豊田町地域にある「蛍街道西の市」、そして旧豊北町地域にある「道の駅北浦街道豊北」である。本調査研究では、そのうち道の駅きくがわを中心に分析する。

道の駅きくがわは、下関市内で最初に建設された道の駅で、1996 年に旧菊川町時代に登録された。施設内には、お土産物屋と食堂などを備えている。下関市内の他の 2 地域にある道の駅が道の駅きくがわに続いてオープンし、新たな設備と鮮魚などの産物を背景に来客数を伸ばす中、道の駅きくがわでは施設利用者数が徐々に減少傾向にある。道の駅きくがわの正面（１本の道路を挟んで向かい側）には、近隣の農家などが運営する農作物直売所「小日本ふるさと市」がある。両施設は、地理的には近接しているが、資本関係や運営上の連携関係は存在していない。両者で販売する商品については、意図的にではないが、一定程度の住み分けが行われており、道の駅きくがわでは基本的に野菜などの農作物の販売はあまり行われていない。

2012 年度から地域研究の一環で筆者たちは、市内にある道の駅のヒアリング調査などを行ってきた。2013 年度は下関市立大学の学内研究予算である特定奨励研究により、今後の道の駅きくがわの運営や経営に資するデータ取得を目的として、その利用状態などについてアンケート調査を行った。また同時に、道の駅きくがわにとって重要な連携拠点となりうる可能性があると考えられる「小日本ふるさと市」においてもアンケート調査を行った。具体的な実施日は 2013 年 12 月 4 日で、午前 10 時頃から午後 3 時頃にかけて、それぞれの施設の利用者を対象にアンケート調査用紙を対象者に示しながら対話形式で行った。有効回答数は、道の駅きくがわでは 102、小日本ふるさと市では 81 であった。

本稿では、これらのアンケート調査の分析を中心に取り扱いながら、今後の道の駅の施設経営に参考となると思われる消費者需要の傾向などを把握するために、両調査結果から得られたインプリケーション・内容を適宜に比較しつつ考察を加えていくこととする。

なお、2013 年度の調査・研究では、他地域の道の駅の取り組みについてもヒアリング調査を行い、今後の道の駅のあり方についていくつかの示唆を得たので、その知見についても若干ふれることにする。

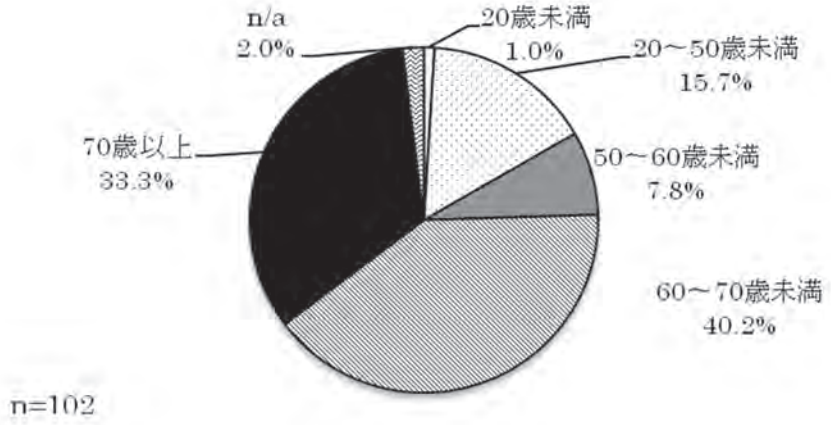
1.「道の駅きくがわ」及び「小日本ふるさと市」の利用者アンケート調査結果の概要分析

まず、道の駅きくがわと小日本ふるさと市の利用者アンケート調査の結果の概要について順次みていこう。

（1）年齢構成

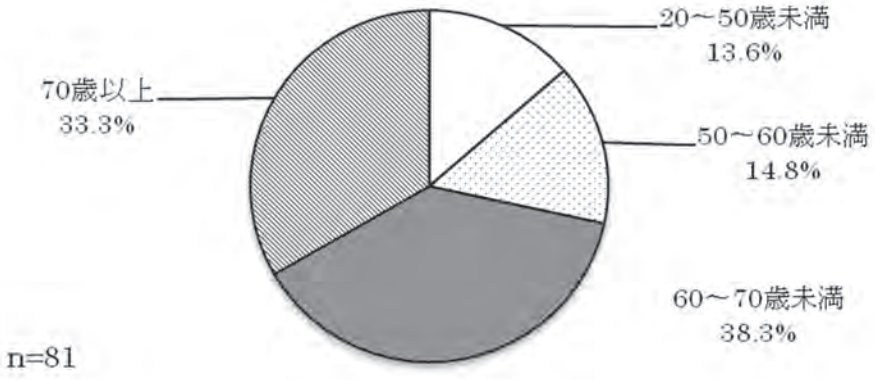
道の駅きくがわと小日本ふるさと市の利用者の年齢層の分布では、いずれも50歳以上が８割を超えている。小日本ふるさと市では、50歳代の割合が15％と、道の駅きくがわよりややこの年齢層が厚くみえる。

図１　道の駅の利用者の年齢構成



出所）『水谷・吉弘研究室2013年道の駅きくがわアンケート調査結果』（2013年）より作成。

図２　小日本ふるさと市の利用者の年齢構成



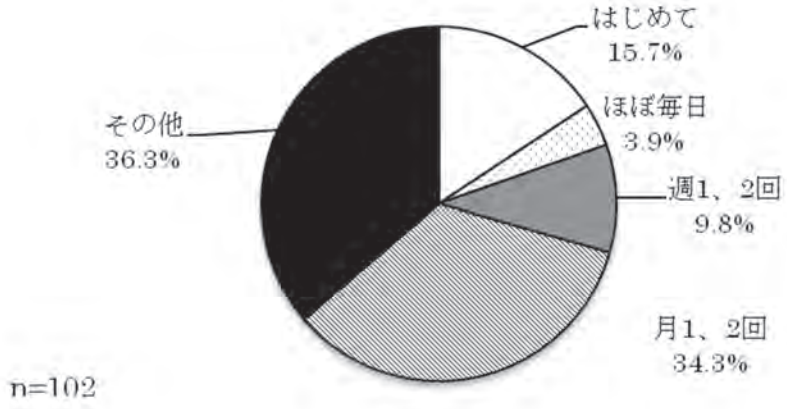
出所）図１に同じ。

（２）利用頻度

道の駅きくがわにおける利用者の利用頻度は、週１回以上来る層の14％と「月１、２回」の35％を合わせて、全体の半数がリピーターであった（図3）。「はじめて」は16％であった。

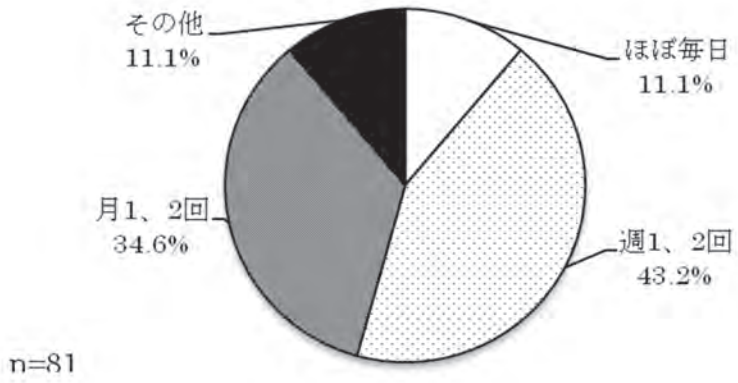
小日本ふるさと市における利用者の利用頻度は、週１回以上来る層が半分を占めており、月１、２回が35％で、ほぼ毎日との回答も１割強あった（図4）。「はじめて」は、いなかった。小日本ふるさと市の利用者は、ほとんどがリピーターで、道の駅きくがわよりもリピーター率とその利用頻度が高かった。

図３　道の駅きくがわの利用者の利用頻度



出所）図１に同じ。

図４　小日本ふるさと市の利用者の利用頻度



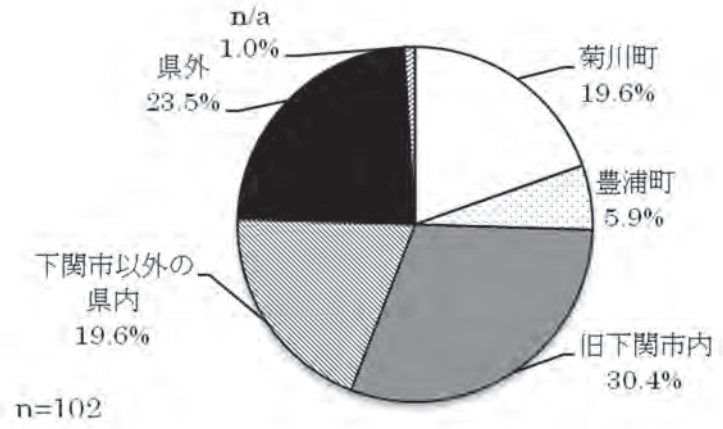
出所）図１に同じ。

（3）利用者の住所・発地区分

利用者の住所・発地区分についてみてみると、道の駅きくがわの利用者は、その半数以上が下関市内で、地元の菊川町内が２割を占め、旧下関市内が３割であった（図5）。一方で、下関市以外の県内と県外の割合を合わせた下関市外から訪れている利用者の割合が、４割を超えていた。このことは、観光客を乗せた観光バスの立ち寄り先の１つとなっていることも影響していると思われる。観光案内看板などの誘導を通じて一定の県外からの客層を惹きつける可能性をもっていることを示唆している。

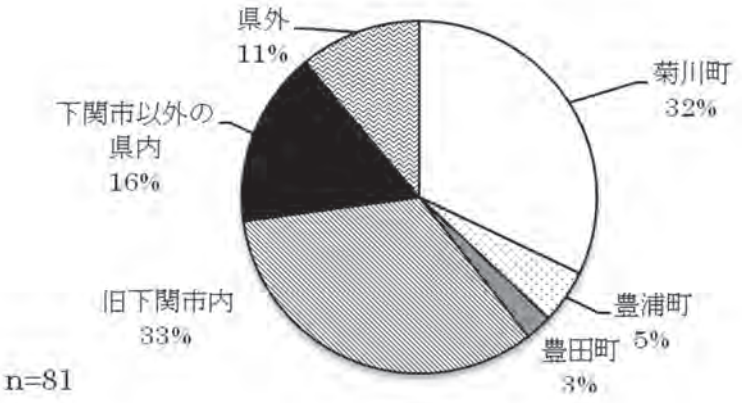
一方、小日本ふるさと市においては、下関市内の利用者が７割を超えており、地元の菊川町内と旧下関市内がともに３割強であった（図6）。市外からの客は３割で、道の駅きくがわよりも少なかった。小日本ふるさと市は、近隣の菊川町内の地元客と下関市内の市民が多く訪れる地域に根付いた「地元」の店という性格をもっている。

図５　道の駅きくがわ来場客の発地区分



出所）図１に同じ。

図６　小日本ふるさと市来場客の発地区分



出所）図１に同じ。

（４）道の駅きくがわの満足度

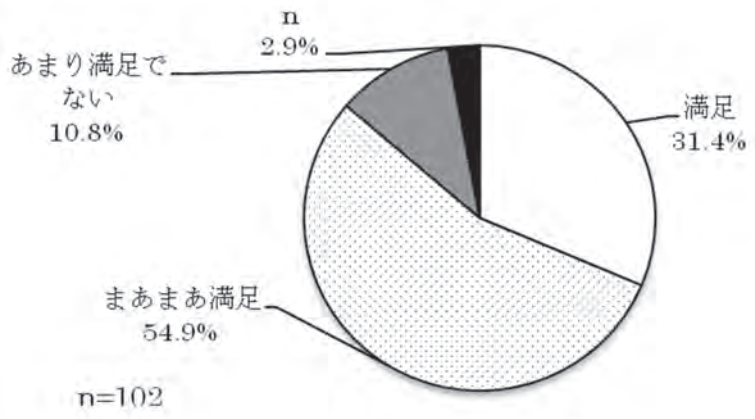
次に、それぞれの施設について個別事情に関する満足度をみてみよう。

まず、道の駅きくがわについては、道の駅の「施設設備（駐車場や建物、トイレなど）」に関する満足度は相対的に高くなっている（図７）。「満足」と「まあまあ満足」を合わせると全体の８割強が肯定的回答で占められていることがわかる。トイレや駐車場といった施設に関する利用者の満足度は現状でも高い状態にあるといえる。

続いて、道の駅きくがわの「物品販売」に対する満足度であるが、これも「満足」と「まあまあ満足」を合わせると全体の８割が肯定的回答によって占められていることがわかる（図８）。しかし、先ほどの施設に対する満足度と比較すると、「あまり満足でない」との回答割合が若干であるが高い。この点について自由記述欄の内容に目を向けると、商品の多様性や地元の産品などに対する利用者の要望が強いことが伺える。

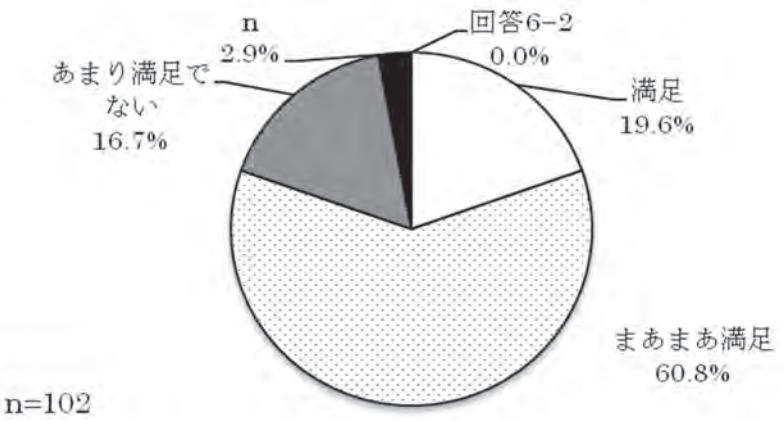
道の駅きくがわの「食堂」に対する満足度では、「満足」との回答が７割を占めている（図９）。一方で、回答者の 1/4 にあたる約 24％が無回答であったが、これは食堂を利用したことがないからであると考えられる。また、「あまり満足でない」等の回答は７％と少ないが、その理由として価格設定について若干の意見が述べられていた。

図７　道の駅きくがわの「施設設備（駐車場や建物、トイレなど）」に対する満足度



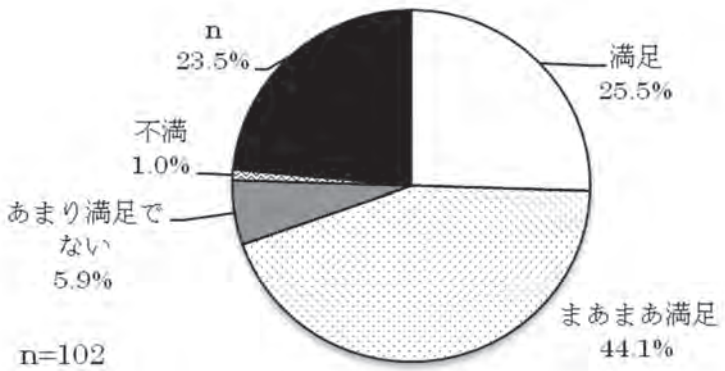
出所）図１に同じ。

図８　道の駅きくがわの「物品販売」に対する満足度



出所）図１に同じ。

図９　道の駅きくがわの「食堂」に対する満足度



出所）図１に同じ。

（５）小日本ふるさと市の満足度

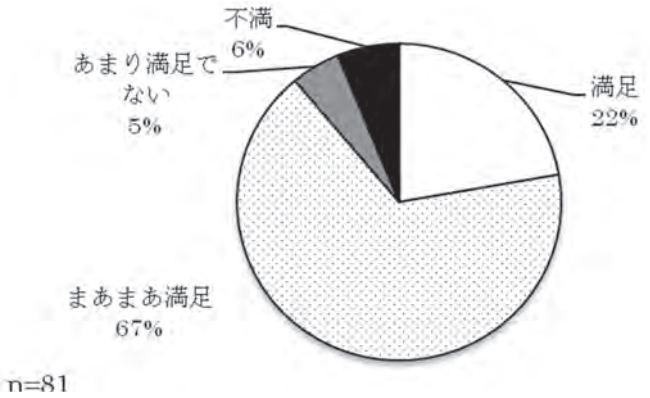
次に、小日本ふるさと市の満足度についてみてみよう。

図 10 でみられる通り、小日本ふるさと市についても「施設設備（駐車場、建物等）」面での満足度は、比較的高い。満足でない割合は１割と少ないが、それに関して駐車場の出入りのあり方に関する意見があげられていた。

また、前後するが、図 12 からみられる通り、「商品の品質」に対する満足度は極めて高い。これは、「満足」との回答が全体の７割で、「まあまあ満足」の 27％と合わせると、利用者のほとんどすべてが満足しており、小日本ふるさと市の農作物・商品に対する極めて高い利用者の評価を表しているものといえる。

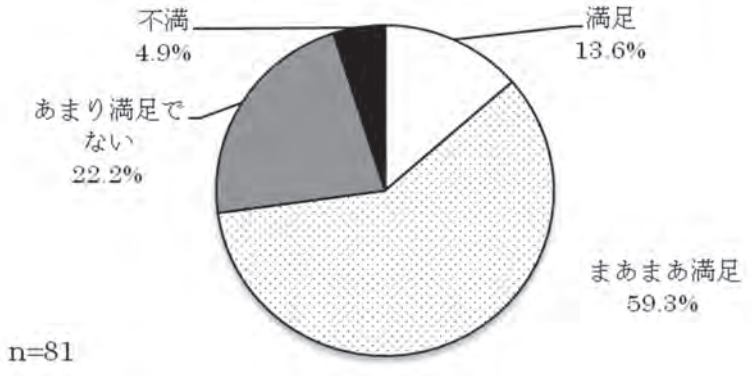
一方、「商品の品ぞろえ」については、3/4 が「満足」であるので、満足度は高いといえる。一方で、「あまり満足でない」と「不満」と回答した利用者の割合が約 1/4 あった（図 11）。この点については、自由記述欄を参照すると、業者による買い占めなどにより午前中で商品がなくなってしまう場合があることや、野菜の種類・量など季節的な要因による商品の偏りなどが指摘されていた。

図 10　小日本ふるさと市の「設備（駐車場、建物等）」に対する満足度



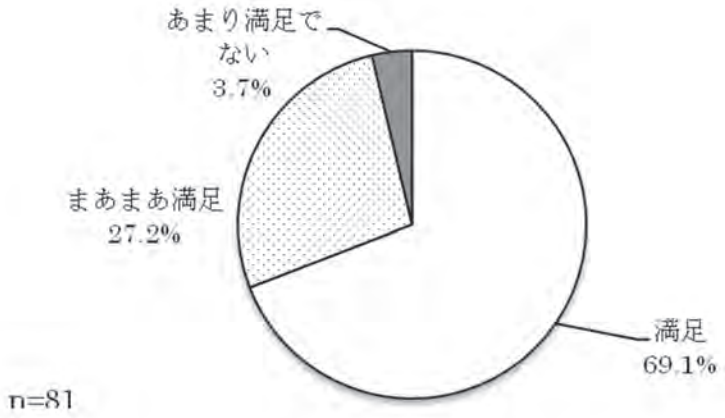
出所）図１に同じ。

図 11　小日本ふるさと市の「商品の品ぞろえ」に対する満足度



出所）図１に同じ。

図 12　小日本ふるさと市の「商品の品質」に対する満足度



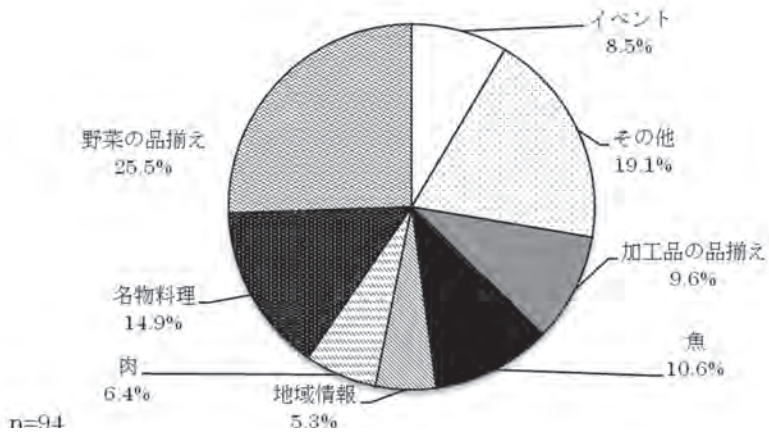
出所）図１に同じ。

（６）道の駅きくがわで拡充すべき要素

続いて、道の駅きくがわで拡充すべき要素について複数回答（２つまで）によりニーズを聞いた(図 13)。最も望まれるのは「野菜の品揃え」であり、全体の４分の１を占めている。また、「名物料理」や「加工品の品揃え」、「魚」などについても期待がある。「その他」は２割あるが、自由記述欄では、地元産品の品揃えの拡充を望む声が大きい。割合は少ないが、「地域情報」の充実を期待する利用者がいた。

道の駅における商品に対して、品揃えや利益率などの点から地元以外の地域外の商品が多くなる場合があるが、利用者のニーズは地元産や地域固有の商品に対する期待が強い。一方、考察で検討するように、地域外の商品でも商品の持つ物語性や地域との関連性など、売り方や見せ方により新たな展開がさらに広がるものと考えられる。

図 13　道の駅きくがわで拡充すべきサービスや品について



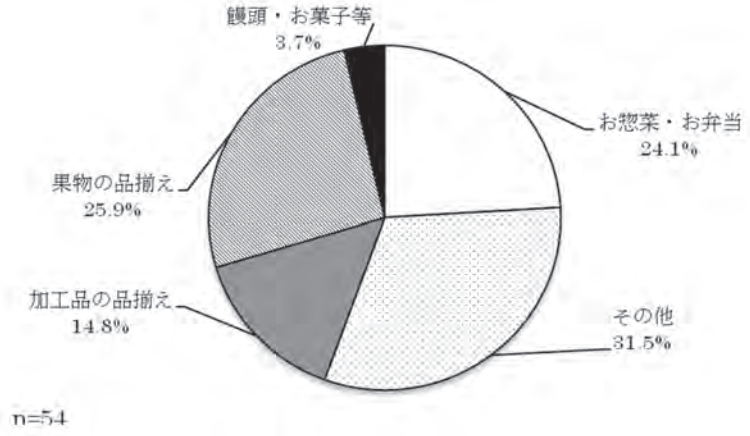
出所）図１に同じ。

（７）小日本ふるさと市で今後の拡充商品

小日本ふるさと市における今後の拡充商品については、「果物の品ぞろえ」が 26％と最も多かった。ほぼ同じ割合で、「お惣菜・お弁当など」が 24％で、中食の拡充を期待する声が多い。続いて「加工品の品ぞろえ」が 15％あった。自由記述欄においては、花卉類の拡充を望む声が少なくなかった。

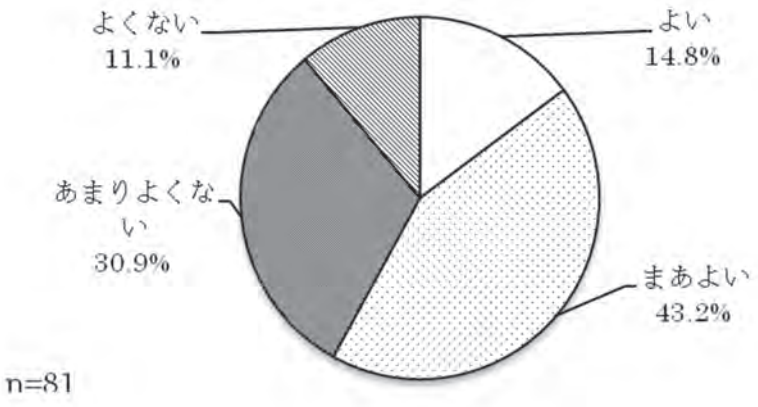
関連して、図 15 は小日本ふるさと市において、150 円や 200 円など「100 円より高い商品」を拡充する場合の利用者の反応である。一部を除いてほとんどの商品が 100 円均一となっている小日本ふるさと市において、100 円以外の商品を拡充することに対して、約 6 割と半分以上が肯定的な回答をしていた。一方、否定的な回答も 4 割あり、一律 100 円という安い料金設定の魅力を重視する利用者も少なくないことがわかる。

図 14　小日本ふるさと市において拡充すべきサービスや品について



出所）図 1 に同じ。

図 15 「100 円より高い商品」を拡充することについての感想

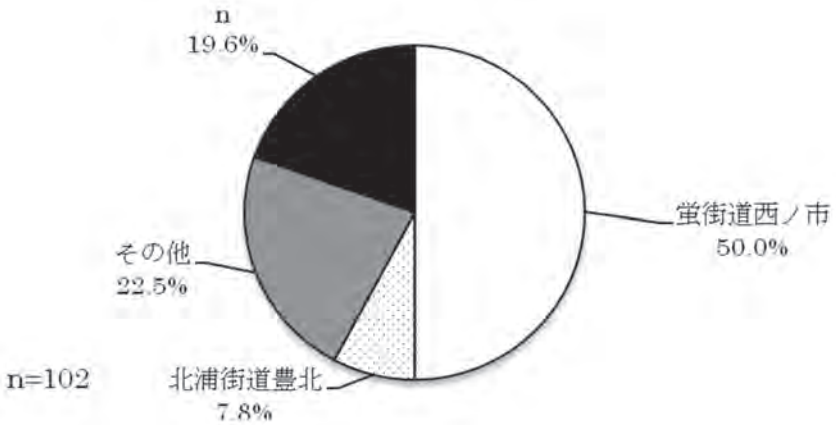


出所）図 1 に同じ。

（8）道の駅きくがわ以外に利用する道の駅

道の駅きくがわ以外に利用する道の駅についてもアンケートを行ったが、交通上行き来しやすい「道の駅蛍街道西ノ市」が最も多く、全体の半数を占めている。同じように下関市内にある「道の駅北浦街道豊北」については１割未満であった。その他として、九州地域にある道の駅を上げる回答者が多かった。

図 16　道の駅きくがわ以外でよく利用する道の駅

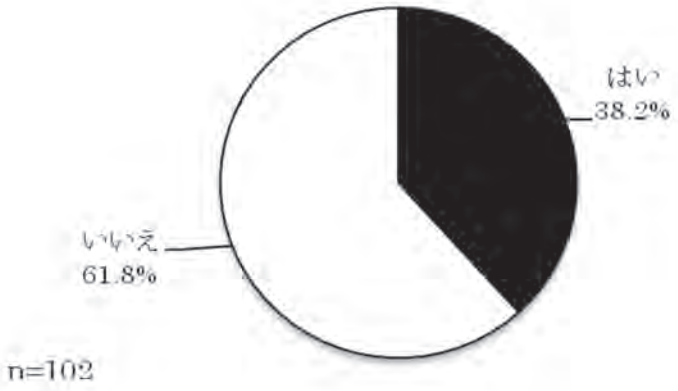


出所）図１に同じ。

（９）道の駅きくがわと小日本ふるさと市の相互の行き来について

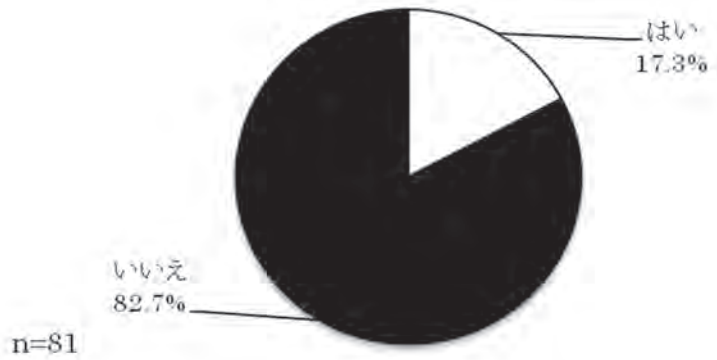
最後に、道の駅きくがわと小日本ふるさと市の相互の行き来について調査した結果が、図 17 と図 18 である。道の駅きくがわの客が小日本ふるさと市にも訪れる割合は約４割である。一方、小日本ふるさと市の利用者が道の駅きくがわにも訪れる割合は２割弱にとどまっていた。

図 17　道の駅きくがわ利用に際し小日本ふるさと市を利用するか



出所）図１に同じ。

図 18　小日本ふるさと市利用に際し道の駅きくがわを利用するか



出所）図１に同じ。

２．利用者アンケート調査結果の考察

ここで、これまでみてきたアンケート調査結果の整理・分析から考えられることを４点だけ指摘したい。

①道の駅きくがわの利用者については、菊川町以外の利用者の占める割合が比較的多く、リピーターも一定の割合で存在していた。それぞれの利用者の持つニーズは異なることが考えられるが、利用者が求める陳列商品の傾向については、地元産や特産品に対する志向が一定程度存在することがわかった。また、名物料理など、その地域でこそ楽しめる食べ物・惣菜などに対するニーズが強く、観光目的の利用者を楽しませる商品開発やメニューのあり方などについての検討が、今後の課題であるといえる。

②一方、小日本ふるさと市は、農作物が商品の中心を占めている関係上、利用者の多くは近隣の住民が多かった。アンケート調査の結果では、お弁当や惣菜など中食の拡充など日常生活で消費される食品に対するニーズが強かった。したがって、このような日常生活で消費されるお弁当や惣菜などの食品を求めるリピーター客のニーズを満たすことが、小日本ふるさと市では今後の戦略の１つとなってくると思われる。

③日常生活で消費される食品を求めるリピーター客の新たなニーズを中心に充実することが合理的な選択肢の１つである小日本ふるさと市と、観光客や地域外からの客が多いため観光や地域情報の発信と地域の物産品の拡充などにより観光客のニーズを満たすことが選択肢の１つである道の駅きくがわとは、今のところ両者で経営や運営に関係する連携をほとんど行っていない。それぞれの経営上の持ち味を活かして両者の商品やサービスにおける住み分けを維持しつつも、新たに戦略的な連携・協力関係をもって協働する場面をいくつかもつことが、両者の可能性を共に広げるものと考えられる。特に、商品や商品構成において、利用者ニーズを前提に戦略的に連携事業を位置づけることが求められる。

④道の駅きくがわと小日本ふるさと市との具体的な連携施策例として、土日などに限定して小日本ふるさと市の商品を取り置き、道の駅きくがわで正午を目処に販売するなどの連携イベントが考えられるかもしれない。この連携イベントの要点は、小日本ふるさと市における業者による商品買い占めなどによる、午前中での品切れなどに対する消費者のニーズに対応することと同時に、内外から訪れる観光客や立ち寄り客に求められている農作物の販売を行うことで道の駅の来場者のニーズも満たすこともできる。ウィンウィンの連携イベントといえる。こうしたイベントを少なくともワンシーズンに１回程度実施し、その効果や消費者のニーズ分析を行いつつ両施設の強みを活かした連携方法につなげていくことで経営上の相乗効果が生まれる可能性は高いと考えられる。

３．県外の道の駅の取り組み事例

他県で積極的な取り組みを行っている道の駅の事例として、沖縄県名護市にある「道の駅許田やんばる物産センター」と、長野県飯山市にある道の駅「花の駅・千曲川」の特徴的な取り組みを簡単に紹介したい。この作業を通して、道の駅きくがわと小日本ふるさと市の今後のあり方に関する何らかの示唆をえるための素材を得たいと思う[1)]。

（１）道の駅許田やんばる物産センター（沖縄県名護市）

道の駅許田やんばる物産センターは、沖縄県の道の駅のなかでも最も人気のある道の駅の１つで、名護市の第三セクター法人である「やんばる物産株式会社」（資本金 6000 万円）が運営しており、2014 年１月には物産センターオープン 20 周年を迎えた。道の駅には、トイレなど休憩機能、地域の情報発信機能、地域づくりを含む地域の連携機能といった３つの機能があるが、道の駅許田やんばる物産センターでは、「モノも人も情報もみんな集まる北部の要」といった機能・役割を果たしているようだ。名護市は沖縄県の北部地域にあり、所在地の名護市だけでなく北部地域全体の交流の「要」といった視点をもって運営されている。年商は､2012 年度でおおざっぱに約 10 億円で､その内訳は農産物３億円、お土産・特産品４億円、フードコート・パーラー３億円ぐらいである。

道の駅許田やんばる物産センターの施設内には、特産物売場（ちんすこうや黒糖、北部 12 市町村の特産品など沖縄ならではの土産品)､農産物売場（農家直送のゴーヤーや島らっきょう、野菜、パインやマンゴーなど果物)、宝くじ売場、パン工房（オリジナルのロールケーキや手作りパン、シフォンケーキなど)、フードコート･レストラン（沖縄そば、チャンプルー、ステーキなど沖縄ならではの食事)、パーラー（おにぎりやバーガー、弁当などの惣菜類、黒糖を使ったぜんざい、「ポークタマゴおにぎり」、土日限定のジャンボバーガー、ソーメンチャンプルー、チャーグーメンチカツなど)、惣菜売り場・天ぷら店（伊平屋島のもずくを使用したもずく天ぷら、野菜かき揚、ぐるくん唐揚げ、弁当・ドリンクなど）があり、店に面したテナントとして、ジェラート工房、かまぼこ屋、サーターアンダギーの専門店、揚げ饅頭屋、黒糖菓子屋、フルーツジュース屋など 10 店舗ぐらいが入っている。

道の駅許田やんばる物産センターの特色をいくつかみておこう。

①地域・地元を重視した商品や特色のある多様な惣菜・食べ物を販売している。伊平屋島のもずくを使用したもずく天ぷらや、沖縄のソールフード「ポークタマゴおにぎり」、チャーグーメンチカツ、サーターアンダギー、おむすびをかまぼこで包んだ「バクダン」などがある。これらの惣菜を食べることを目的にリピーターとなって来る観光客がおり、そのついでに他の農産物や商品を購入する客が多いとのことである。

②フードコート・レストランやパーラーなど施設店内で提供している食品と、テナントの店舗が扱っている食品とは、一部で重なっているものがあるが、両者がある面で競争す

ることで集客において相乗効果があらわれているようだ。

③道の駅許田やんばる物産センターは、地元の高校や大学などとの連携に力を入れてきた。パーラーでよく売れているチャーグーメンチカツに使われている「チャーグー豚」は、地元の沖縄県立北部農林高校が開発したブランド豚で「アグー」と「デュロック種」を掛け合わせた豚である。「黒糖の日」(2014 年 5 月 10 日(土)) には、沖縄県立北部農林高等学校熱帯農業科の生徒によるオリジナル商品である「北農オリジナル黒糖」の販売会を開催した。2013 年秋に新発売した「シークワーサーシフォンケーキ」は、北部農林高等学校食品科学科の学生たちがシークワーサージュース工場でジュースを作る過程で捨てられていた果皮を有効利用するために工夫して開発したものであり、道の駅内のパン工房で焼いて販売されている。

④関連会社として農業生産法人「やんばるよりあいファーム」があり、やんばる物産株式会社の社長や従業員が出資している。ここの農園では、シークワーサー、たんかん、とうがん、島トウガラシ、イモなどを栽培しており、道の駅で農産物として販売もしているが、それらを使って惣菜やお菓子を作り、道の駅で販売もしている。この点は、6 次産業である。また、この農業生産法人は、高齢化して農業を続けることが困難になっている農家から土地を借りて作物を代わりに栽培することも行っている。農家の後継者不足や耕作放棄地の拡大に対して対応することも、この農業生産法人の目的の 1 つであるという。このように生産・加工・販売と結びつけて 6 次産業的に取り組むことができるのは、道の駅があるからである。

(2) 道の駅「花の駅・千曲川」(長野県飯山市)

道の駅「花の駅・千曲川」は、一般社団法人飯山市観光協会が前身である「一般社団法人信州いいやま観光局」が運営している。この信州いいやま観光局は、これまで飯山市振興公社が担ってきた観光施設である「なべくら高原・森の家」や「いいやま湯滝温泉」と新たな施設である「高橋まゆみ人形館」の運営も担当し、飯山らしい魅力づくりを先導している。道の駅「花の駅・千曲川」は、千曲川の中間地点にあり、周辺の景観や景色に恵まれている。

道の駅「花の駅・千曲川」の施設は、地元飯山の旬の野菜・農産物コーナーである農産物直売所、3 つのコーナーからなるおみやげコーナー (和洋菓子や蕎麦、地酒、野沢菜、米、内山和紙など飯山市内で作られたこだわりの商品を取り揃えた「飯山謹製堂コーナー」、北海道、宮城、岐阜、栃木、石川、愛知、高知、九州の道の駅との交流として各地の特産品コーナー、お蕎麦コーナー)、人と自然が育む人里のイメージで 2012 年 4 月にオープンしたカフェ・レストランである「Cafe 里わ」、周辺地域の地図やパンフレットを揃え観光案内を行っている観光情報コーナー、などからなる。

道の駅「花の駅・千曲川」の特色をいくつかみておこう。

①特産品や商品で「地元」をクローズアップ

おみやげコーナーにおいて飯山市内で作られたこだわりの商品を取り揃えた「飯山謹製堂コーナー」や地域の特産品である蕎麦コーナーを設けて、飯山という地域・地元にこだわっている。また、飯山市内にはお寺が多く、仏事などで和菓子を供えたり食したりすることが生活文化として根付いていることもあり、市内に和洋菓子店が17店舗と多く営業している。おみやげコーナーに飯山の和洋菓子店のアンテナショップとしての機能をもたせて17店舗のお菓子をすべてそろえており、店内の「Cafe 里わ」で食べることもお土産として持ち帰りもできる。そして、その17店舗の地図と紹介が掲載された「いいやまスウィーツMAP」も作って配布している。

②飯山をまるごと感じて味わえる喫茶「Cafe 里わ」：週・月・季節ごとの食堂メニュー

「Cafe 里わ」は、道の駅に野菜などの出荷や購入で来た地元の人たちが、その前後で気軽に交流することができる場を提供することを目的の１つとして作られた喫茶店・食堂である。人の繋がりを表す「輪」や「和」を大切に出来るようにといった願いも込めて「里わ」と名付けられたという。そして、観光客に加えて地元の人たちが、地元の採れたての新鮮な野菜やお米などを通して飯山をまるごと感じ、味わえるメニューの提供を重視している。具体的なメニューとしては、昼ごはんの定番メニューとして、里わカレーやタコライス、たまごかけごはん、エッグベネディクトなどがある。定番以外に、週ごと、月ごと、あるいは季節ごとの食堂メニューがあり、「シェフこだわりの厳選素材メニュー」で「今月の昼ごはん」として例えば2014年６月は「福味鶏のガランティーヌ風香味ソース」があり、「地元食材にこだわったメニュー」で「今週の昼ごはん」として例えば「アスパラのフライ～みゆきポークのミートソース添え～」などがある。期間限定のメニューとして「アスパラ・根曲り竹のメニュー」などもある。

③道の駅の情報伝達：季節ごとのパフレット

道の駅「花の駅・千曲川」を紹介するパフレット（Ａ３用紙裏表カラー印刷・４つ折り）が季節ごとに作られて、情報発信に工夫がなされている。そのパフレットには、地域のイベント情報だけでなく、その時期におすすめの特産品情報や、「Cafe 里わ」の季節限定などの多様なメニューも掲載されている。

このように、道の駅「花の駅・千曲川」では、週ごと、月ごと、あるいは季節ごとの食堂メニューを提供するなど、訪れる人が訪れるたびに以前と異なった新しい道の駅を体験・味わうことができるよう工夫している。訪問した観光客や地元の人は、季節の地域情報とともに道の駅が提供する変化した「商品」の情報をパフレットでわかりやすく把握することができ、リピーターとなって繰り返し訪れたくなると思われる。

おわりに

道の駅きくがわと小日本ふるさと市は、これまでは、資本関係や運営上の連携関係はほとんどなく、両者で販売する商品についてあまり競合することもなく住み分けが存在してきたこともあり、それぞれが特徴を活かしながら事業に取り組んできた経緯があった。しかし、道の駅きくがわにとっては、近年、旧４町と旧下関市内が合併したことにより新下関市が誕生し、市内に２カ所の他の道の駅が現在運営されているなど、新たな状況が生じてきたことによる影響が出てきたという面がある。小日本ふるさと市にとっては、高齢化問題と農業の後継者問題という日本全体が抱える問題を野菜などを出品している菊川町内の農家も避けることができなくなっているということがある。おそらく両者は、そのような転換期の時代における地域の大きな課題を避けて通ることはできず、この数年の間にそれらに対する適切な対応を積極的にとることが期待されていると思われる。

最後に、これまでの分析や考察から、いくつかの知見を引き出して指摘することで、本稿のまとめに代えたいと思う。

１つは、道の駅きくがわと小日本ふるさと市とが協働する場面をいくつかもつことが求められるのではないかと先に指摘したが、協働するということは必ずしも商品などで競合しないということではない。場合によっては商品や食のメニュー・惣菜などで競合する場面もでてくるかもしれない。しかし、それは必ずしも一方が得をして他方が損をすることではなく、両者が相乗効果を発揮して全体として訪問客や売り上げが増えると言うこともありうると考えられる。道の駅許田やんばる物産センターでは、フードコート・レストランなど施設店内で提供している商品・食品と、テナントの店舗が扱っている商品・食品とが、一部で重なって競合しているものがあったが、両者が競争することで集客において相乗効果があらわれていた。

道の駅きくがわには、地産・地消を推進する「山口県食彩店」に認定され、菊川町の特産物であるそうめんや合鴨などを使った「菊川風 焼きそうめん」や「合鴨ひとり鍋（季節限定）」など特色のあるメニューをもつ食堂があり、評判が良い。このことは、アンケート調査結果でも、食堂を利用した人たちのほとんどが「満足」との回答をしていたことにも表れていた。ただ、その回答者の残りの 1/4 が無回答であったのは食堂を利用したことがないからであると考えられたが、このような人たちに菊川町の地元食材を使った特色のある多様な惣菜などを味わってもらえる余地がけっこう存在しているのではなかろうか。小日本ふるさと市では、今後は、アンケート調査結果でも品質に関してたいへん評判の高かった地元の新鮮な農産物をそのまま売ることに加えて、お弁当や惣菜に加工して出すこともおそらく考えていると思われるが、気軽に味わえる地元色をもった多様な惣菜を工夫・考案することが求められているように思われる。道の駅許田やんばる物産センターでは、利用者がテナントの店舗などで販売されている特色のある多様な惣菜の中から複数のものを選択して買いもとめてテラスなどで気軽に味わう楽しみがあり、それらが道の駅全

体の賑わいの一部分を作り出していたように思う。

また、道の駅きくがわや小日本ふるさと市を利用する観光客や地元の人たちは、割合としてはあまり多いとはいえないが、相互に行き来していたが、一方を訪れたお客は他方の店舗･施設の季節や今月の情報などをあまり知る機会はないかもしれない。相互の情報を、どちらの施設・店舗でもわかりやすく知ることができたら、相互の行き来も増えて、売り上げや賑わいで相乗効果が出てくるかもしれない。道の駅「花の駅・千曲川」では、例えば１年のうちに何度か改訂される１枚紙で四つ折りの簡単なパフレットがあり、そこには季節や月々の特産品や食堂メニューなどの施設内の情報と地域情報がわかりやすく掲載されていて、観光客などがそれらの情報を簡単に共有することができていたように思われる。道の駅きくがわと小日本ふるさと市の両方に関する季節ごとや月々の情報を同時に知ることのできる１つのパフレットを作成してみることは、両者の協働の１つの方法かもしれない。

菊川町地域では、農家の高齢化と後継者不足や耕作放棄地の問題は１つの大きな課題であり、小日本ふるさと市だけではなく、道の駅きくがわにとっても重要な課題であると思われる。道の駅許田やんばる物産センターでは、関連会社としての農業生産法人が、高齢化して農業を続けることが困難になっている農家から土地を借りうけて作物を代わりに栽培することや、それらの農産物を道の駅の直売所で販売するとともに、それらを使った惣菜なども道の駅で販売もしていた。道の駅があるから、６次産業が成り立っていた。菊川町においても、このような取り組みが１つの参考になるかもしれない。

１本の道路を挟んでお互いに向かい合っているという状況と環境を、これからの道の駅きくがわと小日本ふるさと市の両者の運営や経営で少しずつでも有機的に結びつけて協働していくことは、重要なポイントになってくるように思われるし、そうでないと「もったいない」と思われる。その際、地域内分権をすすめている市役所側の現場の担い手として菊川総合支所の具体的な支援機能や積極的な役割が求められていることは言うまでもない。

注

１）以下の内容は、「道の駅許田やんばる物産センター」については、2014 年１月７日に行ったヒアリング調査の内容と収集資料、やんばる物産株式会社『やんばる物産株式会社 20 周年記念誌』（2012 年）、道の駅許田やんばる物産センターのホームページ（http://www.yanbaru-b.co.jp/）、JTA『Coralway』2014 年若水号／１・２月、40 ～ 41 ページ、などによる。道の駅「花の駅・千曲川」については、2014 年２月６日から７日に行った一般社団法人信州いいやま観光局と道の駅「花の駅・千曲川」などに対するヒアリング調査の内容と収集資料、道の駅「花の駅・千曲川」のホームページ（http://www.chikumagawa.net/）などによる。

［資料①］アンケート調査用紙：道の駅きくがわ

道の駅きくがわ・利用者アンケート（下関市立大学・水谷、吉弘研究室）

本アンケートは「下関市における中山間地域政策研究（下関市立大学特例奨励研究）」のための調査です。本結果は、調査研究のみに利用され他の目的で利用することはありません。ご協力よろしくお願いいたします。

1）回答される方の年齢をお教えください。

1. 20 歳未満	2. 20 歳～ 50 歳未満	3. 50 歳～ 60 歳未満	4. 60 歳～ 70 歳未満	5. 70 歳以上

2）回答される方の性別をお教えください

1．男性	2．女性

3）今日はどこから来られましたか？

1．菊川町	2．豊北町	3．豊浦町	4．豊田町
5．旧下関市内	6．下関市以外の県内	7．県外（　　県）	

4）「道の駅きくがわ」に主にどのような目的で来られましたか（2つまで○をつけてください）

1．トイレ休憩	2．食事	3．買物	4．その他（　　）

5）「道の駅きくがわ」にどの程度来られていますか？

1．はじめて	2．ほぼ毎日	3．週 1，2 回	4．月 1，2 回	5．その他（　　）

6）「道の駅きくがわ」の内容について、それぞれどの程度満足されていますか？

6-1）「道の駅きくがわ」の施設設備（駐車場や建物、トイレなど）について

1．満足	2．まあまあ満足	3．あまり満足でない	4．不満

（不満と回答された方は、その理由があればお書きください：　　）

6-2）「道の駅きくがわ」での物品販売について

1．満足	2．まあまあ満足	3．あまり満足でない	4．不満

（不満と回答された方は、その理由があればお書きください：　　）

6-3）「道の駅きくがわ」の食堂について

1．満足	2．まあまあ満足	3．あまり満足でない	4．不満

（不満と回答された方は、その理由があればお書きください：　　）

7）「道の駅きくがわ」にもっとあれば良いと思うものは何ですか？（2つまで○をつけてください。）

1．名物料理	2．野菜の品揃え	3．肉	4．魚
5．加工品の品揃え	6．イベント	7．地域情報	8．その他（　　）

8）「道の駅きくがわ」の他によく利用される道の駅はどこですか？

1．道の駅蛍街道西ノ市	2．道の駅北浦街道豊北	3．その他（　　）

9）今日は、向かいの小日本ふるさと市にも立ち寄られますか（立ち寄られましたか）？

1．はい	2．いいえ

10）そのほかご意見があればご自由にお書きください。

〔　　〕

［資料②］アンケート調査用紙：小日本ふるさと市

小日本ふるさと市・利用者アンケート（下関市立大学・水谷、吉弘研究室）

本アンケートは「下関市における中山間地域政策研究（下関市立大学特例奨励研究）」のための調査です。本結果は、調査研究のみに利用され他の目的で利用することはありません。ご協力よろしくお願いいたします。

1）回答される方の年齢をお教えください。

1. 20 歳未満	2. 20 歳～ 50 歳未満	3. 50 歳～ 60 歳未満	4. 60 歳～ 70 歳未満	5. 70 歳以上

2）回答される方の性別をお教えください。

1．男性	2．女性

3）今日はどこから来られましたか？

1．菊川町	2．豊北町	3．豊浦町	4．豊田町
5．旧下関市内	6．下関市以外の県内	7．県外（　　県）	

4）小日本ふるさと市にどの程度来られますか？

1．はじめて	2．ほぼ毎日	3．週 1，2 回	4．月 1，2 回	5．その他（　　）

5）小日本ふるさと市の内容について、それぞれどの程度満足されていますか？

5-1）小日本ふるさと市の施設設備（駐車場や建物など）について

1．満足	2．まあまあ満足	3．あまり満足でない	4．不満

（不満と回答された方は、その理由をお書きください。:　　）

5-2）小日本ふるさと市での商品の品ぞろえについて

1．満足	2．まあまあ満足	3．あまり満足でない	4．不満

（不満と回答された方は、その理由をお書きください。:　　）

5-3）小日本ふるさと市の商品の品質について

1．満足	2．まあまあ満足	3．あまり満足でない	4．不満

（不満と回答された方は、その理由をお書きください。:　　）

6）品数を充実させるため、100 円より高い商品を増やすことについてどう思いますか？

1．よい	2．まあよい	3．あまりよくない	4．よくない

7）小日本ふるさと市にもっとあれば良いと思うものは何ですか？（2つまで○をつけてください。）

1．お惣菜・お弁当など	2．饅頭・お菓子など	3．加工品の品ぞろえ	4．果物の品ぞろえ
5．その他（　　）			

8）今日は､向かいの「道の駅きくがわ」にも立ち寄られますか（立ち寄られましたか）？

1．はい	2．いいえ

9）そのほかご意見があればご自由にお書きください

（　　）